

「Shurenkai との出会い チームアプローチを追い求めて」

たかしま歯科 院長 高嶋 俊裕

私は勤務医時代の 2012 年より修練会のセミナーに参加させていただき、3 年前から先代より歯科医院を継承し、計 6 年間 Shurenkai へ通い、毎日思い描く補綴臨床を目指すため、受講してきたことを具現化するために、「毎日が無駄にしたいくない！」と思い日々患者さん、スタッフメンバーと向き合っております。しかし、それが簡単ではないことも Shurenkai に参加されている皆様においては、よくご存知なのではないかと思えます。

当院の場合は、いわゆる旧態然とした歯科医院でしたので、そこから、患者さんへの向き合い方、補綴臨床のレベルアップ、インфекションコントロールへの意識改革、チームアプローチとしての歯科医療という意識…勤務時代にできていた技工士の先生とのやりとりがゼロになり、共通言語の全くない中での診療、無調整と程遠い環境の中での診療…あげればキリがないですが、やるべきことはとても多く、院長としてスタッフメンバーに伝えることの難しさ、伝わらないもどかしさ、勇気が出ず胸にしまっておく言葉の数々、また、実行に移し、プラスの変化が生まれた時の喜びを噛み締めて診療を行っております。そして、当院には Shurenkai 事務局の伊藤マキさんの娘、伊藤アヤが勤務していて、継承後にフォロワーがいたこと、そのサポートも大きいと感じております。

もちろん、最初からうまくいくことばかりではなかったもので、この総会での会員発表という貴重な場において、その苦労や挑戦の悪戦苦闘の日々を発表させていただきたいと思えます。

忙しいことを言い訳にして逃げないように、医院全体の方向付け、温度差が出来ないような働きかけ、デンタルコンフォートの上に立つ補綴検査、補綴治療を考えていきたいと思えます。